



11号地下式横穴墓堅穴部（右側に玄室入口がある）



■地下式横穴墓とは・・・

まず地面に堅穴（堅坑）を掘ります。そしてその底部付近から横穴を掘り、遺体を安置する空間（玄室）をつくります。

次に堅坑と玄室をつなぐ部分（羨道）を石・土塊・板などでふさぎ、堅穴を埋め戻すもので、古墳時代の南九州にみられる墓のタイプの一つです。

■飯隈古墳群は、どこにあるの？

大崎町の南部、飯隈台地の中央部に位置しています。

南へ約2kmの位置に神領古墳群、さらに南へ約3.5kmの位置に大型前方後円墳『横瀬古墳』が存在するなど、高塚古墳の集中する地域です。

今回調査を行った鷲塚地区は、飯隈古墳群の中央部に所在し、鷲塚山という小高い丘の上には、飯隈5号墳・8号墳・9号墳が立地しています。

1 地下式横穴墓を発見！飯隈古墳群

町教育委員会では、飯隈古墳群の鷲塚地区において、古墳や地下式横穴墓がどの位置にあるかを把握し、今後の史跡保存のための参考にするため、確認調査を行いました。

調査の結果、これまで知られていた飯隈5号墳・8号墳・9号墳という高塚古墳以外に、丘陵の傾斜地に地下式横穴墓が10基つくられていることがわかりました。そのうちの2基（鷲塚地区地下横穴9号・11号）の堅坑の上からは、お祀りに使われたと思われる土器が出土しています。

これらの土器は、5世紀半ばのものではないかと推測されます。

地下式横穴墓模式図

